



## 講座のアピールポイント

科学技術の進歩や、経済のグローバル化に伴う地球環境の破壊社会生活における不安要因の増加などにより、人々の精神生活は極めて不安定な状況のもとにおかれています。このような時代であるからこそ人間味あふれ、biopsychosocial な視点を備えた精神科医の育成を目指し、地域の精神医療に携わる人々と手を組んで、最大限の努力を続けていくことが我々、精神医学講座に課せられた責務であると考えます。精神科医が日常の精神科臨床で遭遇する問題にこそ、患者さんやご家族に役立つような研究課題があると考えています。

診療の特徴として、一般外来に加えて、認知症疾患医療センターとの兼務で認知症の診断・治療を行っています。また、栃木で唯一の医師による認知行動療法の専門外来を行っています。さらに近日中に児童思春期外来を開設します。2021年4月より難治性うつ病に対する治療反復経頭蓋磁気刺激（rTMS）療法を開始します。

## 経頭蓋治療用磁気刺激装置 (rTMS)



## 講座研究紹介

## ● 精神薬理学研究

薬物治療の改善を目的に、抗うつ薬、抗精神病薬、気分安定薬などの活性代謝物や光学異性体の測定を行い薬物動態と治療効果について研究を行っています。薬理遺伝学的な手法を用い、薬物治療の改善に取り組み世界的に高い評価を受けています。さらに、向精神薬の内分泌・代謝や生体内物質および心機能に与える影響なども検討しています。

## ● リエゾン研究

心筋梗塞や糖尿病などにより精神疾患（うつ病やせん妄）に罹患する要因を検討しています。精神科リエゾンチームの活動を通じて他科との共同研究を展開しています。

## ● メンタルヘルス研究

精神科患者や職場および看護師のメンタルヘルスに関する調査研究を行っています。さらに患者の同意能力に関する調査も行っています。また、周産期うつに関する調査も行っています。最近「日本人男性の周産期うつ病の有病割合と相対危険度の性差を解明」をプレスリリースいたしました。

<https://dept.dokkyomed.ac.jp/dep-m/psy/assets/docs/newsletter202011.pdf>